

## 平成24年度県民意見の反映状況について

宮城県

平成24年度に行った石巻港港湾環境整備事業（廃棄物埋立護岸）の公共事業再評価において、提出のあった意見の概要及びその反映状況は、以下のとおりです。

## 記

- 1 意見募集期間  
平成24年11月21日（水）～平成24年12月20日（木） [30日間]
- 2 意見提出件数  
2件
- 3 提出された意見の概要及び反映状況

意見の概要	
1	<p>東日本大震災は沿岸部を中心に未曾有の被害をもたらし、震災発生から1年9カ月が経過しているにもかかわらず、まだまだ震災前の姿にはほど遠く、本格復旧はこれからである。復旧・復興の足かせとなっており、最初に取り組まなければならないのが、震災ゴミの問題だと思ふ。まちづくりといっても、この震災ゴミを処理しない限り、前には進めない。この問題をいち早く解決するために、また、産業の復興や特に漁業をなりわいとしている沿岸部の新しいまちづくりを進めるためにも、震災ゴミの処理を早急に進められるよう、埋め立て場所の確保を行うこの護岸工事を早急を実施していただきたい。</p>
2	<p>石巻市などの沿岸地域を訪れることがあり、そこで震災がれきがうずたかく積まれているのを目の当たりにすると、自然発火や悪臭など衛生面の問題もあり、やはり処理を急がなければならないと実感する。この事業では、震災がれきを受け入れるため、先行してB地区の護岸を整備することだが、受入量としては十分なのか。処理しきれないのであれば、A地区でも護岸を整備し、受け入れを行ってはどうか。震災がれき処理が順調に進み、復興が成し遂げられるよう期待する。</p>

意見の反映状況	
1	<p>東日本大震災により発生した大量の災害廃棄物の処理に当たり、県では、短期間で工事が完了し早期の受け入れが可能となるB地区を整備し、リサイクル処理した再生資材を受け入れることとしています。現在、来年度当初からの受け入れ開始に向けてB地区の建設工事を進めているところであり、できる限り早期に受け入れを開始し、災害廃棄物の処理が完了できるよう努めてまいります。</p>
2	<p>災害廃棄物の処理に当たりましては、資源の有効活用及び最終処分量の削減のため、リサイクルを徹底することとしております。また、ブロック内及び県内での処理を優先しておりますが、すべてを期限内に県内で処理することは困難な状況であり、県外からの幅広い支援を得ながら処理を進めているところです。そうした中、当該廃棄物埋立護岸は、県内処理及びリサイクルの拡大に繋がるものでありますが、埋め立てに当たりましては地域環境への影響を考慮し、リサイクル処理した再生資材のみを対象としており、再生資材は陸上工事の盛土材等としても利用されることとなっていることから、B地区のみの受入量で十分であると判断しております。</p>

- 4 評価結果  
事業継続